

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-110	A-161	13-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)			
Liver cirrhosis but not alcohol abuse is associated with impaired outcome in trauma patients - a retrospective, multicentre study. アルコール濫用ではなく肝硬変が外傷患者の予後に関連する：後ろ向き多施設研究			
執筆者			
Nau C, Wutzler S, Dörr H, Lehnert M, Lefering R, Laurer H, Wyen H, Marzi I			
掲載誌			
Injury. 2013 May;44(5):661-6. doi: 10.1016/j.injury.2012.06.013. Epub 2012 Jul 6.			
キーワード			PMID
多発外傷、アルコール濫用、肝硬変、外傷登録			22771123
要 旨			
<p>目的： 肝硬変は手術後患者の予後不良に関連すると報告されている。そこで、アルコール濫用とその後の肝硬変の、多発外傷患者の予後への影響を検討した。</p> <p>方法： ドイツ外傷外科学会の多施設、人口ベース外傷登録を用いて、受傷前のアルコール濫用および肝硬変がある外傷患者 (ISS>9,>18) の予後を、健康な外傷患者と、単変量解析およびマッチドペア分析にて比較した。平均値は Student t 検定、分散分析、カテゴリー変数はカイ二乗検定で比較した。</p> <p>結果： 13,527 人を対象に分析した。713 人 (5.3%) にアルコール濫用があり、91 人 (0.7%) に肝硬変があった。彼らは対照患者にくらべ外傷パターン、年齢、予後に違いがあった。肝硬変患者では、病院内死亡率が期待値よりも高く (35%、期待値 19%)、単臓器、多臓器不全の率も高かった。アルコール濫用は臓器不全の率を高めたが、病院内死亡率には影響しなかった。</p> <p>結論： 多発外傷患者において、肝硬変は予後を悪化させた。受傷前の肝硬変は、個人の死亡リスク評価のための外傷スコアに含めていくべきだろう。</p>			